【資料】「海の命」（光村図書　国語六）より抜粋

太一が瀬にもぐり続けて、ほぼ一年が過ぎた。父を最後に、もぐり漁師がいなくなったので、アワビもサザエもウニもたくさんいた。激しい潮の流れに守られるようにして生きている二十キログらいのクエも見かけた。だが太一は興味を持てなかった。

追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ。太一は海草のゆれる穴のおくに、青い宝石の目を見た。

海底の砂にもりをさして場所を見失わないようにしてから、太一は銀色にゆれる水面にうかんでいった。息を吸ってもどると、同じところに同じ青い目がある。ひとみは黒い真珠のようだった。刃物のような歯が並んだ灰色のくちびるは、ふくらんでいて大きい。魚がえらを動かすたび、水が動くのが分かった。岩そのものが魚のようだった。全体は見えないのだが、百五十キロは優にこえているだろう。

興奮していながら、太一は冷静だった。これが自分の追い求めてきたまぼろしの魚、村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主なのかもしれない。太一は鼻づらに向かってもりをつき出すのだが、クエは動こうとはしない。そうしたままで時間が過ぎた。太一は永遠にここにいられるような気さえした。しかし、息が苦しくなって、またうかんでいく。

もう一度もどってきても、瀬の主は全く動こうとはせずに太一を見ていた。穏やかな目だった。この大魚は自分に殺されたがっているのだと太一は思ったほどだった。これまで数限りなく魚を殺してきたのだが、こんな感情になったのは初めてだ。この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。

水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。

「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」

こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないですんだのだ。大魚はこの海のいのちだと思えた。

「文学的文章」を読み取ろう！

年　組　　番　氏名

「文学的文章」とは、「小説・物語」「随筆・エッセイ」「紀行文」など、作者が気持ちや情景を伝えるために書いた文章のことです。そんな「文学的文章」を〝趣味〟ではなく、**〝国語の授業〟として**読み取るときのコツをつかんでいきましょう！

手順１　設定と状況を整理しよう！

（１）登場人物の確認

「文学的文章」には登場人物が複数出てくる場合が多いです。まずは人物の名前・年齢・性別・職業・などの情報と、登場人物どうしの関係を図に表してみよう。

【例】『海の命』（光村図書「国語六」より）の人物相関図

父

・もぐり漁師
・太一が子供のころ亡くなった。

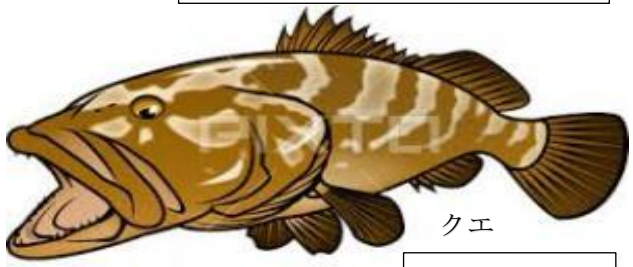
母

与吉じいさ

・太一の漁の師匠
・太一が村一番の漁師になった後、亡くなった。

主人公：太一

・子供
←
中学校卒業
弟子入り
←
村一番の漁師
←
くっ強な若者



クエ

・幻の魚
・太一の父を破った、瀬の主

（２）〝時〟と〝場〟の確認

次に、その物語が〝いつ〟〝どこで〟話が進んでいるのかを確認してみよう。登場人物と同じく、「海の命」で見てみると……

〈時　代〉　不明
〈年・時間〉①少年時代→②中学卒業→③若者になった頃（中心）→④結婚した後
〈季　節〉　③のときは夏
〈場　所〉　不明だが海の近くの村

☆　教科書に載っている各文学的文章の設定と状況を整理し、ノートに書きましょう。

〈１年生〉花曇りの向こう・星の花が降るころに・大人になれなかった弟たちに……・少年の日の思い出
〈２年生〉アイスプラネット・盆土産・字のない葉書・走れメロス
〈３年生〉握手・故郷

「文学的文章」を読み取ろう！

年　組　　番　氏名

ここからは資料「海の命」の一場面を使って、具体的に学んでいきましょう。

手順２　どんな場面が描かれているか？

まずは大きく話をつかんでください。「場面」と言っても、難しいことを読み取るのではありません。基本は、**「いつ」「どこで」「どんなときに」「誰が」「何をした」**をつかみましょう。

資料で練習してみましょう。

「いつ」　…1行目「瀬にもぐり始めて、ほぼ一年が過ぎた」頃

「どこで」　…1行目等「瀬」の中、⑥行目「海底」

「どんなときに」…12行目「父を破った瀬の主」かもしれない11行目「まぼろしの魚」と出会ったときに

「誰が」　…太一が

「何をした」　…22行目「瀬の主を殺さないですんだ。」

つなげてみると……

「瀬にもぐり始めて、ほぼ一年が過ぎたころ、海底で、父を破った瀬の主かもしれない、まぼろしの魚と出会ったのに、主人公の太一は、その瀬の主を殺さなかった」という場面となります。

☆それでは、教科書の次の場面を、ノートにまとめてみましょう。

〈1年生〉「花曇りの向こう」P30 L12～P32　「星の花が降るころに」P102 L11～P104

「少年の日の思い出」P212～P214

〈2年生〉「アイスプラネット」P24 L5～P25 L6　「盆土産」P98 L12～P100

「走れメロス」P198L1～P203 L14

〈3年生〉「握手」P20 L6～P28 L3　「故郷」P113L19～P117 L7

「文学的文章」を読み取ろう！

年　組　番　氏名

手順３　「象徴的な道具」に気づこう！

小説・映画・漫画・演劇などの作者はあらゆる仕掛けを作品の中に織り込みます。そのひとつが**「象徴的な道具（キーアイテム）」**です。

資料『海の命』から抜き出してみると…

L4「海草のゆれる穴」…不気味さ、不安な心
L6「銀色にゆれる水面」L19「銀のあぶく」…安心、不安を振り払うもの
作品全体「クエ」…不安や恐怖の対象から海に生きる全てのものを象徴するもの

→このように読み取ることができます。

では、教科書教材から抜き出して、それが何を象徴しているか自分で考えてみましょう。

〈１年生〉

『花曇りの向こう』より
P29 L11「ぽとりと落ちたボール」

作品全体「梅干し」

『星の花が降るころに』より
P96 L1「甘い香りで白く小さな星の形をしている銀木犀の花」

P98 L6「もう香りがなくなってしまった銀木犀の花」

P106 L16「主人公が捨てた銀木犀の花」

P100 L11「戸部君がみがいているサッカーボール」

これら以外にも**「象徴的な道具」**を見つけてみましょう！

1年生「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」
「大人になれなかった弟たちに……」「少年の日の思い出」

〈2年生〉

『アイスプラネット』より

P19 L2「測量の道具」「すごく精密な望遠鏡」

P20 L20「ぐうちゃんのほら話」

P27 L5「氷（アイスプラネット）の惑星の写真」

『盆土産』より

P93 L9「干した雑魚をだしにした生そば」

P93 L20「東京からの速達」

P96 L14「淡い空色のハンチング」

P98 L14「喜作の真新しい、派手な色の横縞のTシャツと、腰に差した細長い花火」

作品全体「え（ん）びフライ」

これら以外にも「象徴的な道具」を見つけてみましょう！

2年生　「アイスプラネット「盆土産」「走れメロス」

〈3年生〉

『握手』より

P20 L14「潰れた指の先の爪」

P22 L15「食べていないオムレツ」

P26 L11「上野駅の中央改札口」

作品全体「指言葉」

『故郷』より

P106 L13「長いこと一族で住んでいた古い家」

P107 L3「異郷の地」

P108 L3「銀の首輪」

P116 L7「干した青豆」

P108 L1 P119 L14「紺碧の空の金色の丸い月」

これら以外にも「象徴的な道具」を見つけてみましょう！

「文学的文章」を読み取ろう！

年　組　番　氏名

手順３　「象徴的な道具」に気づこう！

小説・映画・漫画・演劇などの作者はあらゆる仕掛けを作品の中に織り込みます。そのひとつが**「象徴的な道具（キーアイテム）」**です。

資料『海の命』から抜き出してみると…

L4「海草のゆれる穴」…不気味さ、不安な心
L6「銀色にゆれる水面」L19「銀のあぶく」…安心、不安を振り払うもの
作品全体「クエ」…不安や恐怖の対象から海に生きる全てのものを象徴するもの
→このように読み取ることができます。

では、教科書教材から抜き出して、それが何を象徴しているか自分で考えてみましょう。

〈1年生〉

『花曇りの向こう』より
P29 L11「ぽとりと落ちたボール」

（例）友達ができるきっかけになりそうだったのに、うまくいかなかった様子。

作品全体「梅干し」

（例）ばあちゃんが言ったように、「何でもよくなる」ものの象徴。

『星の花が降るころに』より
P96 L1「甘い香りで白く小さな星の形をしている銀木犀の花」

（例）夏実と仲良くしていたことの美しい思い出の象徴。

P98 L6「もう香りがなくなってしまった銀木犀の花」

（例）夏実との距離が離れてしまったことを表している。

P106 L16「主人公が捨てた銀木犀の花」

（例）夏実とのことを吹っ切った様子。

P100 L11「戸部君がみがいているサッカーボール」

（例）丁寧に扱わなければ壊れてしまう友情。

これら以外にも「象徴的な道具」を見つけてみましょう！

1年生「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」
「大人になれなかった弟たちに……」「少年の日の思い出」

〈2年生〉

『アイスプラネット』より

P19 L2「測量の道具」「すごく精密な望遠鏡」

（例）大人の現実的な仕事の象徴。

P20 L20「ぐうちゃんのほら話」

（例）楽しい子供の時間の象徴。

P27 L5「氷の惑星（アイスプラネット）の写真」

（例）空想の世界（＝子どもの世界）から真実の世界（＝大人の世界）に主人公を連れて行ってくれるものの象徴。

『盆土産』より

P93 L9「干した雑魚をだしにした生そば」

（例）父が愛する地元や家族の象徴。

P93 L20「東京からの速達」

（例）一人で出稼ぎに行っている父を心配に思っている家族の気持ち。

P96 L14「淡い空色のハンチング」

（例）都会の象徴。

P98 L14「喜作の真新しい、派手な色の横縞のTシャツと、腰に差した細長い花火」

（例）主人公以外の家庭にもある家族愛の象徴。

作品全体「え（ん）びフライ」

（例）主人公の家族一人一人の愛が詰まったもの。

これら以外にも「象徴的な道具」を見つけてみましょう！

2年生　「アイスプラネット「盆土産」「走れメロス」

〈3年生〉

『握手』より
P20 L14「潰れた指の先の爪」

（例）不条理なことが行われる戦時中を象徴するもの。

P22 L15「食べていないオムレツ」

（例）ルロイ修道士の体調がすぐれないこと、死が近いことを暗示している。

P26 L11「上野駅の中央改札口」

（例）主人公とルロイ修道士の永遠の別れの象徴。

作品全体「指言葉」

（例）ルロイ修道士と天使園の子どもたちをつなぐもの。

『故郷』より
P106 L13「長いこと一族で住んでいた古い家」

（例）一族が栄えていた、楽しかった昔の思い出。

P107 L3「異郷の地」

（例）慣れないことや困難が待ち受けている、これからの暮らしの象徴。

P108 L3「銀の首輪」

（例）主人公にとっての英雄であるルントウの象徴。

P116 L7「干した青豆」

（例）現在のルントウが楽しかった昔をすっかり忘れてしまったことを象徴している。

P108 L1
P119 L14「紺碧の空の金色の丸い月」

（例）主人公の心の中に芽生える希望や明るさの象徴。

これら以外にも「象徴的な道具」を見つけてみましょう！

「文学的文章」を読み取ろう！

年　組　番　氏名

手順４　主人公の気持ちを読み取ろう！

小説・映画・漫画・演劇などの作品には必ず〝主人公〟が存在し、必ず〝主人公の気持ち〟が存在します。国語の授業では主人公の気持ちを「文章中の根拠から」読み取ることになります。ここでは、教科書の小説教材を使って、主人公の気持ちが表れている表現を探してみましょう。

気持ちを表す言葉は、次の３つの部分に表れます。

【１　感情を直接表す言葉】

登場人物の気持ちを直接表している言葉です。資料「海の命」から抜き出してみると…

①L11「興奮していながら、太一は冷静だった」

【２　言動（セリフと行動）】

セリフや行動にも、気持ちが表れます。資料を見てみると…

②L12「鼻づらに向かってもりをつき出す」＝おとうを殺したクエを憎む気持ち。

③L18「太一は泣きそうになりながら」＝一人前になりたい気持ちとクエを殺したくないという気持ちで揺れ動いている。

④L19「クエに向かってもう一度えがおを作った」＝クエとともに生きていく決意。

【３　情景描写】

これを読み取れれば、小説などの面白さが深まってきます。小説の作者は、主人公の気持ちを風景や天気などで表しています。ぜひ読み取ってみましょう。「海の命」では…

⑤L4「海草のゆれる穴のおく」＝自分の心にある、暗く不気味な気持ち。

「青い宝石の目」「ひとみは黒い真珠のようだった」

＝クエ美しく大切なものとして見ている気持ち。

⑥L9「岩そのものが魚のようだった」＝クエのどっしりとした大きさを感じている。

⑦L19「口から銀のあぶく」＝クエの対する暗い気持ちがなくなり、尊敬や崇拝する気持ちに変わった。

→こんな感じです。

これらを〈プラス〉の気持ちか〈マイナス〉の気持ちかに分けて読み取ってみましょう。どちらか判断できないものは〈△〉でもいいです。

右の例でいうと

〈プラス〉②④⑦　〈マイナス〉なし　〈△〉①③⑤⑥

△はもちろん、プラスかマイナスかも、学習を進める中で変わっていってもいいですよ。

それでは、教科書の小説教材に線を引いてみましょう。

【感情を直接表す言葉】は鉛筆で、【言動】は青で、【情景描写】は赤で引きましょう。

そしてその横に〈プラス〉〈マイナス〉〈△〉を自分でつけてみましょう。

1年生　「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」「大人になれなかった弟たちに……」

2年生　「少年の日の思い出」「アイスプラネット」「盆土産」「走れメロス」

3年生　「握手」「故郷」

「文学的文章」を読み取ろう！

年　組　　番　氏名

手順5　クライマックス前後で何が変わったのか？

主人公は物語の中で、いろいろ揺れ動きます。その変化が一番大きいのが〝クライマックス〟です。

「海の命」で見てみると……

L19 **太一がクエに向かってもう一度えがおを作り、「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」**

と言った瞬間でしょう。

そして、クライマックスの前後で「何が変わったのか」を考えると、小説全体の【主題】が見えてきます。

おとうを殺したクエ
＝
殺さなければならないもの
↓
イサキ、アワビ、サザエ、ウニなどの海にいるもの
＝
獲物・殺すべきもの
←
クライマックス
「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」
←
クエ・海の生き物　＝　**海を守っているもの、海の命そのもの**

この変化から「海の命」の主題を考えてみると、

主題

海に生きているものは、すべてがその海を支え守っている。
さらに解釈を広げると、
この世に生きているものは、すべて世界を支え守っている。
となるでしょう。

これを参考に、次の作品の
クライマックス前後で何が変わったのかと、その前後から読み取れる主題
を自分なりに考えてみましょう。

また、他の教材や、自分が趣味で読んでいる小説・漫画・映画・ドラマでも
クライマックス　↓　その前後の変化　↓　主題
を考えてみましょう。

〈1年生〉『星の花が降るころに』

前

クライマックス
P103
←L16←
「袋の口を開けて、星形の花を土の上にパラパラと落とした。」

後

主題

〈2年生〉『走れメロス』

前

クライマックス
P203
← L8 ←
「走れ！メロス。」

後

主題

〈3年生〉『故郷』

前

クライマックス
P118
←L15←
「今、自分は、自分の道を歩いていると分かった。」

後

主題

〈1年生〉『星の花が降るころに』

前

（例）夏実との昔のような友達関係にこだわって前に進めない。

クライマックス

P103
←L16←

「袋の口を開けて、星形の花を土の上にパラパラと落とした。」

後

（例）昔ばかりを引きずっている自分から抜け出している。

主題

（例）幼く狭い人間関係を抜け出し、新しい人間関係や新しい世界に飛び込もうとする大人への成長。

〈2年生〉『走れメロス』

前

（例）名誉を守る、正義を見せつけるなど、自分のことが走る理由。

クライマックス

P203
← L8 ←

「走れ！メロス。」

後

（例）友に「信じられている」という、他人のことが走る理由。

主題

（例）自分のためだけに動くより、誰かのために動いた方が、人は走り続けることができる。

〈3年生〉『故郷』

前

（例）悪い方へと変わってしまった社会を嘆く。

クライマックス

P118
←L15←

「今、自分は、自分の道を歩いていると分かった。」

後

（例）今までに経験していない新しい社会を作っていく必要性を感じた。

主題

（例）悪くなった社会を悲観するのではなく、皆で思いをそろえて、新しい明るい社会を作っていかなければならない。